

うたづこう

## 宇多津港（県管理地方港湾）

---

宇多津港は香川県中部、瀬戸大橋の西隣に位置し、遠く鎌倉時代より讃岐の船着き場（鵜足津）として広く世に知られていました。

江戸時代になっては高松藩の藩庫が設けられたことにより、経済交流の要地となり、砂糖、綿等の海上輸送が盛況を呈し、さらに江戸時代末期から明治にかけて開発された塩田の製塩は、最盛期には年間約8万トンが生産され、これらの積出しで港は賑わいました。

本港の整備は、昭和27年から始まり以後、逐次整備を進め、昭和40年頃にはほぼ現在の姿となっています。

その後、塩田は、昭和47年の第4次塩業整備により、その歴史の幕を閉じ、宇多津港背後の塩田跡地約186haは瀬戸大橋時代に向けて、その恵まれた立地条件を生かし、香川中央都市計画区域における中讃地域の商業、業務、流通、観光の拠点として位置づけられ、「新宇多津都市開発」事業が計画施工されました。

現在、瀬戸大橋を望む塩田跡地には、讃岐浜街道（都市計画道路）やJR瀬戸大橋線の新宇多津駅を中心として、展望タワー、ホテル等の観光施設が完成したほか、整備を終えた商業・業務・工業・流通用地および住宅用地等には、施設立地が進み、まさに瀬戸大橋時代の新しい都市が誕生しています。

平成18年には、みなとオアシス「うたづウミホテル」に登録され、地域の賑わいや交流拠点としてますますの発展が期待されています。

